課題委員会報告

三一・四・三〇

(一)

年報才三輯について

来年は大会の共同課題が、去年と同じことになるので、「村落共同体の構造分析」の特輯とする。内容は、

1) 主論文　一般（有賀　喜多野）
東北（中村）農業経済（星埜）
岡山（福武）瀬　村（竹内）

2) 村落共同体に関する海外の研究
イギリス（執行）　アメリカ（森岡）
ドイツ（住谷）　ロシヤ（小森）
フランス（野口）

3) 学界動向
社会学（川越）　経済学（木下）
法律学（潮見）　歴史学（永原）
人文地理（佐藤）

を担当することになつた。

(二)

大会について

十月十一日又は十八日に、毎日新聞社講堂で行なう予定

(三)

課題について

今年は昨年のテーマ、「農家人口の変動と家族の構造」の継続とするので、以下に再録した大綱と、才三回大会の討論集を是非参照いたゞきたいと思います。

尚、発表希望の方は、六月十五日までに、事務局まで御連絡下さい。報告者が出揃つたところで、一度あつまつていたゞき、報告についての討論を行ない、問題を整理しておきたいと考えて居る。

（三一・四・三〇）

〔出席者〕

有賀　喜多野
大内　小池
中島　福武
塚本　北川
松原　蓮見

＊くに高齢労働か補助労働かの別、その家族上の地位別、性別、年令別等々）、その時代的変化を追求し、増加した人口がどういう形で経営内に吸収されてきたか、もしくは、減少したことによつてその労働力構成がどう変化したかを追求する。その処理の仕方は次の四つの形で考えられよう。

① 増加した人口がどういう形で経営のなかに吸収されているか

② 吸収されない労働力はどのように自家の農業経営外で処置されているか（副、兼業、通勤、出稼等、更に通勤の場合には、通勤先、職種、収入、農繁期の場合の関係等はどのようであるか）

③ 処置され得ないものは（失業）

④ 非常労力人口の状態は

(2) 家族内の役割分担（家長、主婦、経営者等）が右の変化に対応しつゝ、どのように果されているか。家族員の身分上の変化（結婚、相続、分家、就職等）がどのように行われているか。また、それらへの家族員の意識態度がどのようにあらわれるか。（家産、家業の相続、分家、

隠居、家長の地位と権能、結婚、嫁入仕度、就学、就職等々の慣行の変化への意の問題）

(3) 遡及にあたつては、流出した叔父や兄弟まで追求する必要もあるし、その意味で対象農家数は小数とならざるを得ないであろうが（多くて廿世帯となろう）、例えば農地改革前と現在の経営、専業別（これに関しては註を参照されたい）などを指標に、

(4) 遡及はどうしても最近十五年くらいに限定されてしまうであろうが、統一上少くとも、大平洋戦争直前、終戦時、現在の三時点は捉えたい。更に望み得べくば昭和十三年、十六年、二十年八月、二十一年四月、二十五年、現在程度の各時点を把握しておきたい。

〔現在〕

専業農家
- 上（自作兼小地主を含む）（たとえば1.5町以上）
- 中（7～8反～1.5町）
- 下（7～8反以下）

兼業農家
- 上（相当大きな自営兼業 俸給生活者名存職）
- 下（賃労働者、小営業等）

（註）

〔改革前〕

専業農家
- 上
  - 自作地主
  - 自作
  - 自小作
- 中
  - 自作
  - 自小作
  - 小自作
- 下
  - 自作
  - 自小作
  - 小自作
  - 小作

兼業農家
- 上（地主、大きな自営兼業、等）
- 下（賃労働、小営業）